

「新城市総合計画の進捗状況について」の答申にあたっての審議ポイント

- ※主題:
- ① 総合計画実施計画のローリング(見直し)案が、総合計画の掲げた理念、施策の目的に照らして相応しいか。
(事業内容・種類、進め方、事業の量、優先度など)
 - ② 事業の進め方が市民からみて分かりやすく説明されているか。
 - ③ 予算編成(財政計画)と連動するシステムとして、総合計画の進捗管理が機能しているか。(今後の市民委員会の関わり方としてどうか)

※具体的視点

1 実施計画シートの内容について

(1) 実施計画シートは、施策を達成するための事業を示すものである。

- ・ 本計画に掲げた施策・事業の体系【基本戦略⇒戦略の方向⇒目標が達成された姿⇒個別目標(施策)⇒主な事業】からして、実施計画の見直し案として提出された各事業が、「施策」あるいは「目標が達成された姿」を実現するための事業として相応しいものであるか。(「主な事業」とはいえ、事業の数が少なすぎないか)
- ・ 事業提案(質疑・意見)が「予算がない」「職員が少ない」で済まされることなく、事業の方向性、実施手順を見直す意図で捉えられないか。

(2) 実施計画シートは、事業展開を示す手順書(仕様書)である。

- ・ 市民協働指数を説明する「市民参加」がマネジメントサイクルのどの部分に位置づけられるのか不明なシートが多々ある。市民参加をすべての事業に位置づけるための工夫がされているか。(「市民参加の時期と内容」欄の記載状況より)
- ・ 事業内容説明が内向け(行政内部への説明)となっており、市民への説明を意識した判りやすい表現になっていない。
- ・ 「行政経営資源の有効活用のための工夫」欄や「市民ニーズの把握方法」欄の記載がバラバラであり、マネジメント内容が伝わってこない。

(3) 実施計画シートは、事業の進捗状況を測る「成果シート」である。

- ・ 成果指標及び成果目標は、進捗状況を測るうえで不可欠のものであるが、事業によっては成果指標が見つけられず、従来の活動指標に留まっているものが見られる。
- ・ 成果を測るために設定された指標であるが、指標の測定方法

が不明確であったり、現在の数値（成果）が記入されていないか、
ったりと、事業の進捗を正確に測定できる指標となっているか、
また、目標としたの数値が適当であるのか判断しがたいものがある。

- ・ 20年度目標値は、平成21年3月末に測定されなければならないが、測定のための準備が進められているか。測定後の第一次評価を担当者が行なう際の基準、第2次評価を行なう当委員会の評価基準をあらかじめ明確にしておく必要を感じる。

2 総合計画と予算編成(財政計画)の連動について

(1) 優先度判定が、答申によって変更する余地がないのは疑問である。

- ・ 本計画に掲げた理念や施策の推進を役割の一つとする当委員会には、どんな事業を優先して実施しようとしているのかは大きな関心事であり、優先度の見直しを付した意見に対して、部局内での十分な検討を期待したい。
- ・ 21年度事業は判定済みとあるが、22年度以降の見直しにつながる検討を期待したい。

(2) 優先度判定は、予算編成の重要部分であり透明性が必要である。

- ・ 優先度判定は、予算編成過程の重要な部分であり、透明性をめざすのであれば市民委員会への諮問を事前（最終判定前）に行なうべきではないか。

3 総合計画に掲げた重点施策を達成するための事業の見直し案について

……以下省略……